

件名：第8回 安倍川総合土砂管理計画フォローアップ作業部会 議事要旨

■ 日時：令和4年3月17日（木） 10:00～12:00

■ 場所：WEB会議

■ 議事内容

1. 土砂管理対策とモニタリング調査について

- (1) 山地河川領域における砂防堰堤下流の土砂管理基準は、構造物の健全度の評価としては良いが、通過土砂量の評価には必ずしも適さないため、土砂収支を把握できる地点、基準・指標を検討すると良い。
- (2) 土砂生産・流出領域における藁科川の土砂管理基準は、土砂を管理する基準ではなく、土砂管理を考える上でのモニタリング基準という表現の方が適している。
- (3) 藁科川の河床変動の評価と安倍川本川の河道の土砂動態の評価を切り分けて分析することで、藁科川からの土砂流出の状況がより明らかになると考えられるので、今後も土砂動態を詳細に分析していく必要がある。
- (4) 土砂管理という視点で、供給土砂量を適切に評価できる地点、基準・指標は、各課題に対応しながら適宜見直しを実施していく必要がある。
- (5) 海岸領域の土砂管理基準は、必要浜幅を満足しない必要砂浜幅の測線数だけでなく、達成までの状況をカテゴリ分けして評価することや、ボリュームによる視点で評価すると良い。
- (6) 令和元年の大きな出水による影響が令和2、3年も継続していると推察される。過去に生じた同程度の出水後の状況と比較するなど、中長期的な土砂の動きを分析すると良い。

2. 土砂動態に関する課題解決に向けた検討について

- (7) 土砂動態の実態把握や外力設定など、総合的な分析を行いながら、シミュレーションの精度向上を図ることが望ましい。
- (8) 計画策定時の想定と計画策定後の実際の土砂動態との乖離が確認された際は、想定した外力設定やシミュレーションモデルの精度等の要因分析を行い、計画を見直す必要があるのかを検討すると良い。
- (9) 定期横断測量とLPデータを活用しながら、河床変動の状況を引き続きモニタリングすることが、安倍川全体の土砂動態の把握につながる。

3. 短期的な土砂管理対策の検討について

- (10) 安倍川流砂系での過去の土砂動態の分析を踏まえ、短期的な大雨や土砂に絡む現象をより広い視点で、対象現象を先に絞りすぎず、起こりうるシナリオを想定することか

ら検討を始めるものとする。

- (11) 想定する土砂動態やそれに伴ってどのような被害が発生するかが重要となるため、起こりうるシナリオを想定した上で、総合土砂管理計画の中でどの事象を対象とするかについて議論しながら検討を進める方が良い。
- (12) シミュレーションモデルに関しては、短期現象の各領域の被災事例に応じたスケールでモデルを構築し、その後に領域間の連携方法について検討していく。
- (13) 想定される短期のシナリオに関しては、早い段階で、各委員から意見徴収し、次年度具体的に検討を進めていく予定とする。

以上